

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	大学生の意見の政策への反映や、市政への参画について	滋賀県草津市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	くさキャン～草津市は大学生の学びキャンパスだ！～		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 (公開)	チーム GACCHI (学生×地域 = 合致)		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数 (公開)	9名		
代表者 (公開)	松本仁実		
メンバー (公開)	中井遥輝、則武麻里、山口陽子、山本一成、中波りく、栗田真理子、田中祐樹、竹中和哉		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

確認後 OK なら右に○印を記入➡○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこちらです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

学生と市民の互いの取組や活動、課題等を知る機会の創出や、学生と市民を結びつける仕組みの構築により、地域で学び、地域を支える、学生と地域の連携を加速させたい。また、地域課題に触れた学生が政策に関心を持つことで若者の市政への参画を促したい。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

地域活動に参加したい学生（大学生・大学院生）と、学生の地域活動に期待する市民等を合致させ、『地域で学び、地域を支える』学生と地域の連携を加速させるためのアイデア。

【仮説】

地域は若者の人手不足など、学生のパワーやアイデアを求めている。また、学生も地域での経験や関わりを求め、地域からの期待に応えたい想いはあり、お互いに必要としている。

【背景】

●学生の本音

- ・新しい経験を増やしながらかつ人との関わりを持つ体験をしたい。
- ・社会貢献になることへの地域からの期待や、頼りにされたことには応えたい。
- ・市内での移動手段があまりなく、興味のある活動であっても移動手段の問題で断念していることがある。
- ・食事の提供などがあると嬉しい。
- ・友達と共に活動に参加したい（友達を増やす・関係性を濃くする）。
- ・地域の人から過度な期待、重い役目や責任感を押し付けられることは嫌である。
- ・地域の活動をどこで探せばよいかわからない。

●地域の本音（まちづくり協議会など）

- ・若者・学生のアイデアや刺激が欲しい。
- ・高齢化による人手不足のため、活動に関わってくれる若者を増やしたい。
- ・イベントや行事の開催時に、ちょっと足りない人手を補いたい。
- ・いずれ学生は卒業してしまうが、色んな学生との関係性を長く続けたい。
- ・関わってくれそうな学生にどこで出会えるかがわからない。

【使用するツール】

(1) 地域で求める学生募集情報をまとめた学生向け WEB サイトを構築。（当面は無料で使用できる WEB サイトを活用）

(2) 地域のニーズと学生のマッチングのズレを回避するために、学生が活動する上で興味のある分野等を学生に WEB アンケートでリサーチし、回答者のメールアドレスを取得。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(3) (2) でリサーチした学生の興味カテゴリ毎に、募集情報等を学生へ(2) で取得したメールアドレスに配信、WEB サイトへ誘導。

(4) WEB サイトの周知、WEB アンケートの拡散のため SNS での拡散やチラシを配布。

(5) 将来的に地元企業の広告収入等により有料の WEB サイトまたはアプリを構築。

【内容（WEB サイト）】

地域が求める、基本的な学生の募集概要のほかに、[1]送迎有無[2]学べることや経験できること[3]有償または無償[4]食事提供有無[5]参加した学生の声等、学生視点での知りたい情報を掲載した募集記事にする。

・学生が地域で活動するには現地までの移動手段が無く参加できないという課題があるため、送迎の有無を掲載。

・学生にとってメリットのある食事の提供有無について掲載。

・人気の地域活動ランキングや参加した学生の口コミ（学べた内容や経験できたこと）など学生の興味をひく情報を掲載。また、地域が募集時間を掲載する際の参考となるように大学の時間割などを掲載し、さらに移動手段の提供など広がりが進む環境を充実させる。

【効果】

地域で活動をする学生が増えることで、学生と市民の互いの取組や活動・課題等を知る機会が創出されることにより、地域課題に触れた学生が市の政策に関心を持ち、市政に参画する流れを創る。

・各地域から多様な課題についての学生募集の記事が多く掲載され、この WEB サイトを閲覧すれば各地の課題と活動をまとめて知ることができる。

・学生が地域活動に参加することで、実際に地域課題に触れることができ、学生の学びにつながる。

・地域に貢献できたことで参加した学生のモチベーションが上がり、在学中に継続して活動を行うことで就職活動において学生時代に力を入れたこと（ガクチカ）として発信することができる。

・地域に愛着を持った学生が、地元企業へ就職することも想定できることから、若手人材が不足している地元企業にとって大きなメリットとなり、将来的に企業の協賛・協力を得た WEB サイト（アプリ）の運営が期待できる。

【実施体制】

地域と学生をつなげることを活動とする学生団体を立ち上げて主体とし、市民有志メンバーと協働して地域情報の収集や WEB サイトの更新等を運営する。なお、まちづくり協議会、自治会、町内会、小中学校等の地域に本取り組みを周知するために、当チームメンバー（大人）が中心となりサポートする。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

●草津市民の大学生への期待 草津市民への「立命館大学に関するアンケート調査」（郵送アンケート）

【期間】2022（令和4）年10月6日～11月28日

【対象】30歳以上の草津市民 3,000人【回答数】1,063人

草津市民の立命館大学の大学生に望むこととしては、「学生ならではの視点や行動で、地域を舞台にした新しい取組に挑戦して欲しい」が40.7%で最も回答割合が多く、特に何も望まないとの回答は10.5%でしかなかった。

出所：草津未来研究所「大学生の意識に着目した草津市の魅力向上のための基礎調査に関する報告書」

設問15：あなたは立命館大学の大学生にどのようなことを望みますか？【複数回答可】

回答15：

回 答	回答数	割合
①研究成果や授業で学んだことをもとに、地域で活動して欲しい	367 人	34.5%
②ボランティア活動などを通じて、地域の活動や行事に参加して欲しい	296 人	27.8%
③学生ならではの視点や行動で、地域を舞台にした新しい取組に挑戦して欲しい	433 人	40.7%
④市内での下宿や、店舗で買い物をして、地域経済の活性化につなげて欲しい	238 人	22.4%
⑤小学生や中学生などの子ども達の学習の支援や交流により、子ども達の成長を応援して欲しい	397 人	37.3%
⑥学園祭や学生団体の発表会など市民が参加できるイベントを開催し、まちに賑わいを生み出して欲しい	320 人	30.1%
⑦卒業後も草津市で就職して働いて欲しい	159 人	15.0%
⑧卒業後も何らかの形で草津市に関わって欲しい	277 人	26.1%
⑨その他（ ）	43 人	4.0%
⑩特に何も望まない	112 人	10.5%

●地域（まちづくり協議会）の大学生・学生団体への期待・支援ニーズ

公益財団法人草津市コミュニティ事業団_立命館大学サービスラーニングセンター開講科目シチズンシップスタディーズ 2022-2023 ヒアリング資料より抜粋。

- ・地域のイベントの盛り上げ役に。専門性を活かすボランティア。
- ・区域の商店・企業との連携企画。
- ・SNS、WEBの知識でサポートを。学生特派員。公式LINEなどで情報発信。高齢者のITサポート。情報誌やHPのサポートを。
- ・地域の高齢化、将来の担い手。買い物や通院の移動手段。
- ・防災・減災の取組みへの協力。
- ・子どもの食育をすすめたい。子どもが体験できるブース出展。
- ・高齢世帯と若い世帯との交流企画。若い世代向け催しの企画。新旧エリアの交流促進を。
- ・ウォーキングルート開発。
- ・農業・歴史テーマで連携したい。草津の歴史を継承する活動の企画。里山保全活動と一緒に活動。
- ・まちづくりセンターのスペースを有効活用したい。継続的に関わってほしい。 など

●大学生の地域活動への参加意向

立命館大学生への「草津市に関するアンケート調査」（WEBアンケート）

【期間】2022（令和4）年10月17日～11月28日

【対象】立命館大学BKCに所属する学部生【回答数】332人

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

草津市の地域での活動への参加状況については、コロナ禍でもあり参加経験のある学生は少なかったが、「何度も参加したことがある」「1回だけ参加したことがある」と回答した学部生は一定おり、「参加したことはないが、参加してみたい」との回答割合が全ての項目において最も多く、約半数程度以上を占めた。

設問17：学生生活で、草津市の地域での活動に参加したことがありますか？

回答17：項目ごとに当てはまる回答を1つ選んでください。

項目	何度も参加したことがある	1回だけ参加したことがある	参加したことはないが、参加してみたい	参加したくない・興味がない	項目	何度も参加したことがある	1回だけ参加したことがある	参加したことはないが、参加してみたい	参加したくない・興味がない
住民の交流に関する活動（祭りのサポートなど）	6.3% 21人	4.8% 16人	52.4% 174人	36.4% 121人	健康づくりに関する活動（教室のサポートなど）	2.1% 7人	2.4% 8人	52.1% 173人	43.4% 144人
町内会と連携した地域の問題に関する活動	4.2% 14人	4.2% 14人	46.7% 155人	44.9% 149人	スポーツに関する活動（教室や大会のサポートなど）	4.2% 14人	5.1% 17人	54.5% 181人	36.1% 120人
保育園や小中学校などの活動の支援	3.0% 10人	4.2% 14人	55.4% 184人	37.3% 124人	歴史・文化に関する活動（文化財保護や発表会のサポートなど）	3.0% 10人	2.1% 7人	51.8% 172人	43.1% 143人
子どもに関する活動（遊び相手や勉強のサポートなど）	4.5% 15人	3.9% 13人	59.0% 196人	32.5% 108人	生活環境に関する活動（清掃活動など）	3.0% 10人	3.6% 12人	53.6% 178人	39.8% 132人
高齢者・障害者に関する活動（見守りなど）	1.8% 6人	1.8% 6人	50.6% 168人	45.8% 152人	地球環境に関する活動（SDGsなど）	2.4% 8人	4.5% 15人	53.6% 178人	39.5% 131人
防災や防犯に関する活動（防災マップづくりやパトロールなど）	2.1% 7人	3.0% 10人	48.2% 160人	46.7% 155人					

出所：草津未来研究所「大学生の意識に着目した草津市の魅力向上のための基礎調査に関する報告書」

但し、学生の情報の入手手段として「人から教えてもらった」が、11項目中7項目において最も多くあげられていることから、地域の情報を得る機会は多くないと思われる。

【データを踏まえてアイデアを実現したい理由】

- ・学生が参加しやすいサービスデザインと学生・地域の人たちも使いやすいサイトやアプリなどの設計が必要。学生・地域共に心理的ハードルを超えやすくする工夫が必要である。

- ・初めて参加する学生に対して、いかに最初のハードルを下げるかが重要である。ハードルを下げる一助として、友達からの誘いがある。「学生団体への参加のきっかけになった。」との意見があり、（友達から誘われる→参加する→同じ時間、体験を共有し仲間ができる→仲間、友達と同じ体験、時間を共有し続けたい→参加し続ける）活動のモチベーションも友達との時間の共有が鍵である。

●地域のまちづくりに関する大学生の関わりについてのアンケート（チーム GACCHI）

※提案内容の根拠付けや可能性を調査するために急遽実施した。

【期間】2023（令和5）年12月1日～12月14日【対象】地域のまちづくり協議会

【回答数】7カ所

- ・まちづくり協議会として大学生の力（ボランティア）が必要としているかに対して「はい（7カ所：100%）」、必要とするのはいつが多いか「土日祝：7カ所（100%）平日1カ所（14.2%）」という結果となり、7カ所全てが必要としており、土日祝を中心とした活動を求めていることがわかった。

- ・1日活動の場合の昼食サポートが可能かについては「はい（100%）」だったが、送迎が可能とした協議会は2カ所（28.6%）であった。地域によっては自力で参加を求める意見もあり、移動手段を持たない学生とのずれが明らかとなった。

⇒まずは学生の課題となっている移動手段の確保ができる送迎可能な地域からモデルケースとして始め、上手くいけば広げていくことを目指していく。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

学生団体とサイトを運営する市民有志

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

<ヒト>

- ・地域と学生をつなげることを活動内容とする学生団体
- ・WEBサイトを運営する市民有志グループ
- ・地域の団体（まちづくり協議会、町内会・自治会等）の登録サポートメンバー（※当チームメンバー中心）
- ・活動場所への移動手段の提供者（利用団体やその関係者）

<モノ>

- ・WEBサイトの構築
- ・学生の登録（メールアドレスの取得）
- ・地域利用者（団体）の登録
- ・学生に向けた定期的な情報配信（メールマガジンの発行）

<カネ>

まずは無料で利用できるWEBサイトを活用し、取得したメーリングリストで学生に情報を流してWEBサイトにアクセスしてもらうことで当面は費用をかけずに実施する。

●今後の展開

収入が見込めるようになった後に、様々な機能を付けた有料サイトの構築またはアプリの開発を行う。

- ・収入：利用料金、スポンサー企業広告、立命館大学奨学金、市の事業予算、国等の補助金の活用
- ・支出：サイト構築初期費用および改修など継続費用、団体保険加入費用

3. 実現までのプロセス

テーマ	大学生の意見の政策への反映や、市政への参画について											
年月	2023年			2024年								
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
COG関係												
・応募用紙作成⇒提出	■											
・1次選考結果の発表			■									
・最終選考				■								
学生団体関係												
・募集のための資料作成&修正		■	■	■	■	■						
・メンバー募集 (Instagram, Xなどで募集)		■	■	■	■	■	■	■	■			
・イベント体験			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
・運営ミーティング (費用の検討、サイトの改善など)			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
実証実験関係												
・地域にヒアリング (ボランティア募集行事など)			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
・実証実験			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
・実験結果を地域にフィードバック (学生の気持ちを伝える)			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
サイト実験関係												
・大学事務局に申請⇒許可		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
・無料サイト作成					■	■	■	■	■	■	■	■
・無料サイト運営開始					■	■	■	■	■	■	■	■
・アンケート (メールアドレス取得)				■	■	■	■	■	■	■	■	■
・メールリストで周知					■	■	■	■	■	■	■	■
・登録内容募集				■	■	■	■	■	■	■	■	■
・サイトを改善					■	■	■	■	■	■	■	■

・大学までの送迎が可能な地域を1～2つ抽出し、モデル地域として実施していく。成功すれば、他の地域にも広げていく。